

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学務教職員課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紺野 好弘	内線 7320
小施策	17-3	高等学校教育の充実	評価 シート 作成者	伊藤 佳子	内線 7321

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生徒一人ひとりの進路目標を達成するため、ソフト・ハード両面からの教育環境の整備充実を図る必要がある。		学力の向上と部活動・特別活動の充実を図るとともに、規律のある生活習慣の確立と保健衛生・安全指導を推進するほか、一人ひとりの個性や希望を生かした進路指導の充実を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
高校生		学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 進学・就職進路達成率(進学・就職進路達成者数(実人数) / 卒業生数)	%	→	当初値 (H25) 98.3 R1目標値 99.0 R6目標値 99.0 	⇒	・文武両道の教育方針の下、生徒一人一人の進路目標の実現に向けて、3年間を見通した進路指導計画に基づく指導や生活指導と一体化した進路指導等に取り組んできた。 ・就職支援相談員の配置により、企業が求める人材と生徒の希望や能力とを効果的に結びつける就職支援が行われ、進路指導が充実した。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・志望する大学や専門学校に進学した。 ・志望する就職先に就職した(15年連続 就職率100%)。	⇒	・進学準備(浪人)が若干多かったことが当初値を下回った要因である。 ・大学入試改革により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」という「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものへと転換することが目指されており、主要5教科の学びを基にした言語活動重視の対話型授業によるコミュニケーション能力の育成が求められている。
			・指標のH30年度実績値が当初値を下回った。 ・長期間かつ継続的に取り組むことが必要であることから、引き続き、学力の向上を図る授業の推進と進路指導の充実が求められている。	⇒	
指標② 国公立大学合格率(合格者数(実人数) / 卒業生数)	%	→	当初値 (H25) 15.3 R1目標値 15.0 R6目標値 15.0 	⇒	・文武両道の教育方針の下、受験に向けた指導を効果的に行うことにより、学力の向上を図る授業が充実した。 ・特別進学コースの1学年全員が東北大学のオープンキャンパスに参加している。
			問題点	⇒	問題の要因分析
			・国公立大学に進学した(国公立大学合格者実数32人)。	⇒	・首都圏の私大定数削減により地方の国公立大学へ受験者が流入し難易度が上昇したことによる影響が考えられる。 ・大学入試改革により「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」という「学力の3要素」を多面的・総合的に評価するものへと転換することが目指されており、主要5教科の学びを基にした言語活動重視の対話型授業によるコミュニケーション能力の育成が求められている。
			・指標のH30年度実績値が当初値を下回った。 ・目標の実現を目指し、一人一人を生かした学力向上を図る授業の充実が求められている。	⇒	

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
★ 他校視察や教員研修による教員の実践的指導力の向上を図る。	
★ 岩手大学の教職員大学院と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての研修を実施し、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。	
★ 他校視察や教員研修による教員の実践的指導力の向上を図る。	
★ 岩手大学の教職員大学院と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての研修を実施し、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。	